

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第508号 平成25年3月11日

飛行するイカ

イカは敵が近づいてきた時、漏斗から水を生きよい良く噴き出して逃げようとする事は、私もテレビの映像などで知っていますが、筋肉が特に発達した外洋性のイカの場合は、勢いよく水面から飛び出す事もあるそうで、「イカが空を飛ぶ」として世界中で確認されています。

水中の生き物でありながら空を飛ぶ事で有名なのは、トビウオです。彼等の場合は胸ビレを使って海面を滑空するのですが、トビウオよりもっと高度な「飛行行動」を取っているイカの存在が、北海道大学大学院の研究チームによって確認されました（2月8日付読売新聞から）。

このイカは、アカイカやトビイカというスルメイカの仲間と見られていますが、一体どのように飛行するのでしょうか。

研究チームによると、東京の東600kmの太平洋上を航海中に撮影した連続写真を解析した結果、イカの高度な飛行のメカニズムが分かったとしています。

それによると、イカの飛行は、水中で勢いよく水を噴射しながら時速36kmまで加速して水上に飛び出し、更に水を噴射して加速し、飛び出しや飛行時には折りたたんでいる腕や頭のヒレを広げて揚力を生み出し、約30m滑空した後、腕やヒレを折りたたんで着水するというものです。

イカがジェット機のように水を噴射しながら空中を飛行するというのは、想像するだけでも楽しくなりますが、同時に、イカの持っている能力に改めて驚かされます。

この様に、イカの飛行行動の解析に成功したのは、世界で初めてとの事ですが、身近な存在でありながら知らない事って多いものです。

捕食者から身を守る為に、イカもその飛行能力を高めて来たのだと思いますが、DNAに刻み込まれた本能に、生命の神秘を感じます。

イカは、墨を吐いてさっさと逃げるところから、大相撲の隠語に勝ち逃げを意味する「イカを決める」という言葉があるそうですが、イカのスピード感には、昔の人も注目していたのですね。

そういえば、人間様にも人を煙に巻いてあっという間に姿を消してしまう、まるでイカのように逃げ足の速い人は沢山いますよ。（塾頭：吉田 洋一）